

道徳科事例Ⅰ

主題名 すなおにのびのびと


第2学年 A - (2) 正直, 誠実

1 ねらい

ポンの気持ちの変容を考えることを通して、いけないことをしてしまったときにはその非を認め、あやまることよさに気づき、素直に伸び伸びと生活しようとする態度を育む。

2 教材名(出典) 「子だぬき ポン」(学研「みんなの道徳 2年」)

3 学習指導過程

過程	学習活動と主な発問(○◎)	・予想される児童の発言	□指導上の留意点 ◆評価の視点(方法)
導入	1 本時の学習課題を設定する。 ○「いけないこと」をしてしまったことは、ありますか。自分から言えましたか。	 <p>ポイント①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある</li> <li>・嘘をついたことがある</li> <li>・友達にいじわるをして、謝ったことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□日頃の生活を振り返られるように、具体的な場面を想起させる。</li> <li>□児童の素直な感想や発言から本時の学習課題を設定する。</li> </ul>
しょうじきに生活することのよさについて考えよう。			
展開	2 教材「子だぬき ポン」(前半)を読んで、ポンの心の弱さについて考える。 ○ポンは、どうして嘘をついてしまったのでしょうか。  3 後半部分を読んで、ポンの気持ちの変容を考える。 ○嘘が見つかってしまいそうなポンはどんな気持ちでしょう。  ◎ポンは、この後どうしたと思いますか。【役割演技】 <スタートのせりふ> 「ポン、どうしたの」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことを自慢したかったから</li> <li>・みんなに羨ましいと思われたかった</li> <li>・家にこなければ大丈夫と思っていた</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒られちゃう</li> <li>・困った、どうしよう…</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嘘をついてごめんなさい</li> <li>・みんなに自慢したかったんだ</li> <li>・ぼくいけないことしちゃった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□紙芝居形式で教材を読む。</li> <li>□ポンの気持ちの変容に気付かせるため、ポンが嘘をつく場面で一度止める。</li> <li>□ポンの気持ちに寄り添い、誰でも軽い気持ちで嘘をついてしまったことがあることを共有する。</li> <li>◆嘘を言ったり、ごまかしてしまったりしたポンの気持ちを考えている。(発言)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ポンの気持ちに寄り添い、誰でも軽い気持ちでごまかしてしまうことがあることを共有する。</li> <li>◆嘘をついてしまったことを正直に認めることのできたポンの気持ち、嘘をつかれた友達の気持ちについて、自分の経験も踏まえながら、多面的・多角的に考えている。(役割演技, 発言)</li> </ul>
終末	4 教師の説話を聞く。 5 本時の学習で考えたことを書く。		◆正直に生活することのよさについて自分の生活を見つめて考えている。(ワークシート)

4 評価の視点

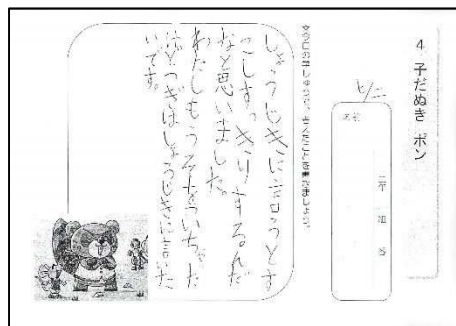
- ・弱さも含め、時間の経過とともに変化するポンの気持ちを、多面的・多角的に考えていたか。
- ・素直に伸び伸びと生活することのよさについて、自分の生活を見つめ、自分なりの考えを深めていたか。

## ポイント① 自分事として考える課題設定

- 導入場面で「いけないこと」とはどのようなことが児童に問いかけたところ、「悪口を言った、叩いたり蹴ったりした、嘘をついた」など、自分の生活経験と重ねて考え様々な意見が出された。そこから本時のねらいに繋げるために「自分から（いけないことをしたときに）言える人を何というかな」と問いかけ、「正直者」というキーワードを拾い、本時の学習課題を設定した。しかし児童にとって、「正直」という言葉は遠いように感じられた。発達段階を考えると、「正直とは〇〇ということ」と意味を確認してあげることが、児童がより自分事として捉え、考えられたのではないかと思う。
- 計画段階では、学習課題を「正直に生活することのよさ」としていたが、児童と協働する中で「正直に生活することの大切さ」に置き換えてしまった。本時で何を考えるのか、明確な指導観を指導者がしっかりもつことが大切であり、「どう問うか」言葉の選択も重要である。児童の実態を踏まえると、本時は「本当のことを言うよさについて考えよう」という課題設定が妥当であった。

## ポイント② 一人一人の思いを書き留めるワークシート

評価の方法の一つとして、児童の学習感想等をワークシートに残し、積み重ねていくことは有効である。本時では、これからの目標や思いを書いている児童が何人もおり、自分の生活を見つめて考える姿が見られた。ねらいにせまることができたと考える。一方、何を書くのか明確でない児童もいた。「今日の学習で考えたことを書きましょう」ではなく、ねらいにせまるためには「しょうじきに生活することのよさは为什么呢」と提示する方法も考えられる。



## 児童の学習状況及び道徳性に係る成長の様子

第3回	1 主題名	だれとでもいっしょに C-(11) 公正, 公平, 社会主義
	2 教材名	「およげないりすさん」(学研「みんなのどうとく 2年」)
	3 ねらい	登場人物の気持ちを考えることを通して、違いや好き嫌いにとらわれず、相手の気持ちを考え、誰にでも同じように接しようとする心情を育てる。
<p>&lt;役割演技&gt;登場人物のとった行動や気持ちを考える中で、人はそれぞれ違うということに気付くことができた。「仲間外れにしないでみんなで仲良くしたい」と、これからの生活に生かしていこうという気持ちを高めていた。</p>		

第11回	1 主題名	すなおにのびのびと A-(2) 正直, 誠実
	2 教材名	「子だぬき ポン」(学研「みんなのどうとく 2年」)
	3 ねらい	ポンの気持ちの変容を考えることを通して、いけないことをしてしまったときにはその非を認め、あやまることのよさに気付き、素直に伸び伸びと生活しようとする態度を育む。
<p>&lt;ワークシート&gt;うそを言うってしまう主人公の気持ちの弱さにも触れながら、正直に行動することのよさについて書いていた。うそやごまかしをしないで素直に謝ることで、自分も相手の気持ちもすっきりするということが気付いていた。</p>		

第19回	1 主題名	正しいと思うことをする A-(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任
	2 教材名	「メイとケンプ」(学研「みんなのどうとく 2年」)
	3 ねらい	メイの気持ちや行動の根拠を考えることを通して、よいことと悪いことの区別をし、良心にしたがってよいことを進んで行おうとする判断力を育てる。
<p>&lt;エピソード記録&gt;正しいと分かっていることでも、なかなか行動にうつすことのできない迷いや難しさ、葛藤があることに気付き、さまざまな角度から考えることができた。自分の生活を振り返って考え、正しいと思うことをするには勇気が必要であるということにも気付き、考える姿が見られた。</p>		

様々な登場人物の立場に立って、行動の背景や気持ちについて考えられるようになった。特に、人間の迷いや弱さに関わって、「自分にもそういうことがある」と、登場人物に寄り添って考えたり、自分の生活と照らし合わせて考えたりする姿が見られた。